



【取組内容】

- 従来危険な道路上で行っていた舗装修繕工事に係る業務を、**ICTを用いることで、室内のパソコンで行える**ようにし、安全性や働きやすさの向上に貢献。その結果、重大事故のリスクを軽減や、今まで工事に携わる事が難しかった**未経験者、身体障がい者、女性等も就労できる環境**を創出し、また**就労した人の技能向上**の効果も確認。
- 「誰もが公共工事に携われる環境を作る」**アプローチにより、**性別や年齢、体力や障がいの有無に左右されない雇用を創出し、人手不足や貧困問題の解消**等を通してSDGs達成に貢献。
- 仕事を通して、パソコンの操作方法習得を含む**労働者のICT教育**にも繋がっている。

SDGs実施指針における実施原則（本アワード評価基準）

普遍性：	道路という世界共通のインフラを対象とした技術革新であり、その技術と実施形態の先進性は国際社会でロールモデルとなり得る。
包摂性：	年齢、ジェンダー、障がいの有無、国籍や宗教等を問わない就労を可能とすることは、「誰一人取り残さない」の理念に合致。
参画型：	自社開発ソフトの無料貸し出し等により、労働者の初期投資負担を軽減。行政や舗装業各社及び関連企業を巻き込んでいる。
統合性：	リサイクル資材を用いた舗装修繕産業において多様な人が平等に就労することで、経済・社会・環境の3分野の相互関係性を強める。
透明性と説明責任：	省庁や財団の実施するアワードで取組を公表し評価を受けており、発表の際には自身の活動に目を向けて修正や自己評価を実施。

